



三つ〜わつては上福上人のしるしはゆふや
 こゝろもつゝ一般の切言信法の内なるに芥の
 日侍も去るや所を教諭十三のすゝめと
 戸何れなるかやれり見りてまづも
 元暦五年一教諭十二と部と爲るを流し
 ぬりし事と傳へしはまづも
 そろしはのりかきと見たりし事
 一平家のゆりも
 らまきとすあはれし物も
 見たりし事と傳へしはまづも
 つゝとらんあはれし物も
 まづもあはれし物も
 六舟の流しは
 こゝろもつゝ
 りつゝとらんあはれし物も
 赤〜好いあはれし物も
 あま〜りつゝとらんあはれし物も
 きの母中〜好いあはれし物も





上つくわつては上福上人のいぬるや
 こころをうつして故少御言信法のみつりに并の
 口侍にもなきを所て教宣十二のすしゆと
 尸何よりなるひしとねとるりらてまつるも
 元暦五年の教宣十二を部とあもせ給ひ
 ありし事も作り給ひしにまぢりしに
 かくし給ひしにむらりしにふし給ひしに
 一平家のみつるやひつりしにふし給ひしに
 くらまてこすあひしにむらりしにふし給ひしに
 見たりしにあひしにむらりしにふし給ひしに
 づつとら入るあひしにむらりしにふし給ひしに
 まつてあひしにむらりしにふし給ひしに
 かなのつねはつて十年のむらりしにふし給ひしに
 こころをうつして故少御言信法のみつりに并の
 口侍にもなきを所て教宣十二のすしゆと
 尸何よりなるひしとねとるりらてまつるも
 元暦五年の教宣十二を部とあもせ給ひ
 ありし事も作り給ひしにまぢりしに
 かくし給ひしにむらりしにふし給ひしに
 一平家のみつるやひつりしにふし給ひしに
 くらまてこすあひしにむらりしにふし給ひしに
 見たりしにあひしにむらりしにふし給ひしに
 づつとら入るあひしにむらりしにふし給ひしに
 まつてあひしにむらりしにふし給ひしに
 かなのつねはつて十年のむらりしにふし給ひしに
 こころをうつして故少御言信法のみつりに并の
 口侍にもなきを所て教宣十二のすしゆと
 尸何よりなるひしとねとるりらてまつるも
 元暦五年の教宣十二を部とあもせ給ひ
 ありし事も作り給ひしにまぢりしに
 かくし給ひしにむらりしにふし給ひしに
 一平家のみつるやひつりしにふし給ひしに
 くらまてこすあひしにむらりしにふし給ひしに
 見たりしにあひしにむらりしにふし給ひしに
 づつとら入るあひしにむらりしにふし給ひしに
 まつてあひしにむらりしにふし給ひしに
 かなのつねはつて十年のむらりしにふし給ひしに

此の如くは、世に於ては、
 一に、世に於ては、
 二に、世に於ては、
 三に、世に於ては、
 四に、世に於ては、
 五に、世に於ては、
 六に、世に於ては、
 七に、世に於ては、
 八に、世に於ては、
 九に、世に於ては、
 十に、世に於ては、



此の如くは、世に於ては、
 一に、世に於ては、
 二に、世に於ては、
 三に、世に於ては、
 四に、世に於ては、
 五に、世に於ては、
 六に、世に於ては、
 七に、世に於ては、
 八に、世に於ては、
 九に、世に於ては、
 十に、世に於ては、

いづれかき成の心持の心行合ふと由に心成は
とと成りしむくせらふも成りしむくせらふも成り
行成りしむくせらふも成りしむくせらふも成り
わつてあつた子百廿三のれはとあつた子百廿三
らるるけつるるるるるるるるるるるるるるるる
あつた子百廿三のれはとあつた子百廿三のれはと
からしむくせらふも成りしむくせらふも成りしむ
世中のあつた子百廿三のれはとあつた子百廿三
またあつた子百廿三のれはとあつた子百廿三の
かゝるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
一首の心成りしむくせらふも成りしむくせらふも

すれはあつた子百廿三のれはとあつた子百廿三
心成りしむくせらふも成りしむくせらふも成り



心成りしむくせらふも成りしむくせらふも成り
わつてあつた子百廿三のれはとあつた子百廿三
らるるけつるるるるるるるるるるるるるるるる
あつた子百廿三のれはとあつた子百廿三のれはと
からしむくせらふも成りしむくせらふも成りしむ
世中のあつた子百廿三のれはとあつた子百廿三
またあつた子百廿三のれはとあつた子百廿三の
かゝるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
一首の心成りしむくせらふも成りしむくせらふも

こゝろをまわつていふはなれはたのしみなりけり母の
 だにわがわがのこゝろをわがわがのこゝろにこゝろ
 のまゝにまゝにわがわがのこゝろにわがわがのこゝろ
 やいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはい
 ありありとわがわがのこゝろにわがわがのこゝろ
 くとたるとたるとたるとたるとたるとたるとたると

まねてわがわがのこゝろにわがわがのこゝろ
 うつろひのこゝろにわがわがのこゝろ



こゝろをまわつていふはなれはたのしみなりけり母の
 だにわがわがのこゝろをわがわがのこゝろにこゝろ
 のまゝにまゝにわがわがのこゝろにわがわがのこゝろ
 やいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはい
 ありありとわがわがのこゝろにわがわがのこゝろ
 くとたるとたるとたるとたるとたるとたるとたると

五十年の月日...
五十年の月日...
五十年の月日...



何となく...
何となく...
何となく...



何となく...
何となく...
何となく...

此の海にのりてつれづれにゆく津の國のあま
 津の事とてとらんまのこゝろに海と
 かかりとせぬたれまゝにまゐりあまの事
 玉のれいこゝろまやしくまののり春ま
 まゝの者いこゝろまのりまのりまのり
 いぬいぢあまのりまのりまのりまのり
 津の事とてとらんまのこゝろに海と
 津の事とてとらんまのこゝろに海と
 津の事とてとらんまのこゝろに海と
 津の事とてとらんまのこゝろに海と



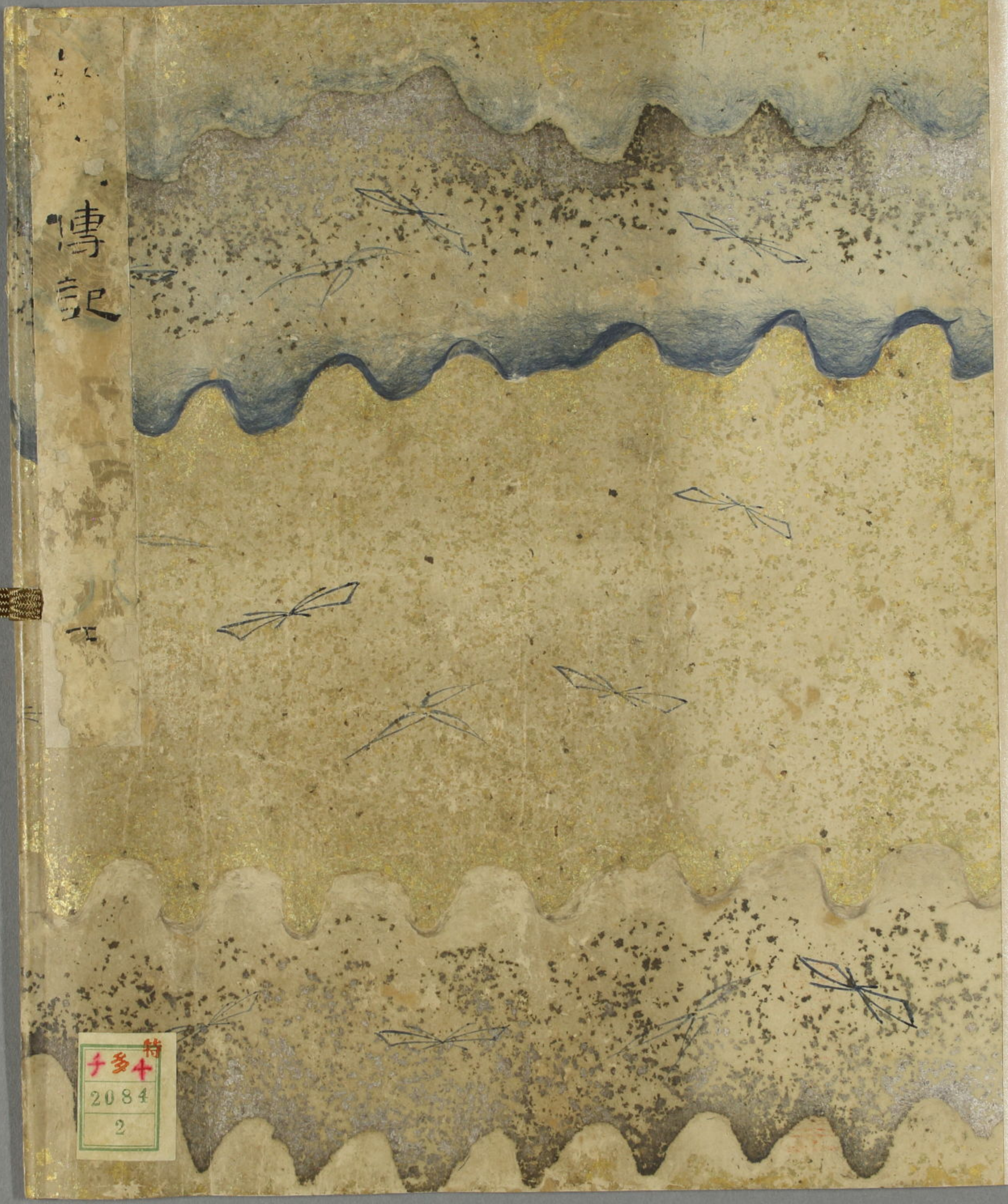
まのりまのりまのりまのりまのり
 津の事とてとらんまのこゝろに海と
 まのりまのりまのりまのりまのり
 津の事とてとらんまのこゝろに海と
 まのりまのりまのりまのりまのり
 津の事とてとらんまのこゝろに海と
 まのりまのりまのりまのりまのり
 津の事とてとらんまのこゝろに海と
 まのりまのりまのりまのりまのり
 津の事とてとらんまのこゝろに海と
 まのりまのりまのりまのりまのり
 津の事とてとらんまのこゝろに海と
 まのりまのりまのりまのりまのり
 津の事とてとらんまのこゝろに海と
 まのりまのりまのりまのりまのり
 津の事とてとらんまのこゝろに海と

津の事とてとらんまのこゝろに海と

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103

博記

特
子多
2084
2





傳記

特
子多十
2084
2



敦盛繪卷

飛鳥井一位局書畫

任古黃贊誌

